

令和 2 年度

事業所名 : グループホームあてるい

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500352		
法人名	株式会社ヒトタ商事		
事業所名	グループホームあてるい		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字石橋7番地		
自己評価作成日	令和2年12月31日	評価結果市町村受理日	令和3年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年11月より「あったかいご グループホームアテルイ」として開所・運営してきましたが、平成29年からは法人名と事業所名も変更し、「グループホームあてるい」となりまして、早いもので3年となります。利用者様一人一人とゆっくり向き合う時間を大切にし、信頼関係が築けるよう取り組んでいます。また、入居者様の笑顔を大切に、日々個人の尊厳を守る役目に努め、家庭的な明るい雰囲気作りを心がけています。引き続き医療連携も継続出来ており、常に利用者様が安心して過ごしていただける体制に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に市民ホール、大型店舗、コンビニエンスストアなどがある街中のJR水沢駅圏に位置している。同じ敷地内には、同一法人が運営する有料老人ホームが隣接し、現在は感染症対策で制限されているが、利用者同士の交流が日常的に行なわれている。職員は、理念に「笑顔で、あったかいところで、ゆっくり、いっしょに、その人の自主性を大切にします。」とあるように、利用者一人一人にゆっくりと向き合い、信頼関係を築いている。食事やおやつを利用者と一緒を作り、同じテーブルで和気あいあいと楽しみながら食べている。感染症対策で大幅に活動が制限されている中、利用者のストレス軽減の一つとして、中庭での焼き芋バーベキューを行ったりして、青空の下で楽しい一日を過ごしている。医療連携も築かれ、安心して過ごせる体制ができている。職員は活き活きと働き、利用者が満足出来るサービスの提供に努力している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールの見やすいところに掲示し、職員間で共有を図っている。声かけ会話には特に気を付けて支援している。	理念は、事業所開設から10年経ており、見直しを含めて話し合いをし、継続することとした。今後は、理念を基に、事業所及び職員一人一人の具体的な行動目標を策定し、ケアの充実に取り組むことを考えている。	理念については、今後も話し合いを継続し、利用者一人一人について理念の実践を意識したケアの充実を図ることを期待します。また、理念に沿い、事業所及び職員個々の年間活動目標を立て、取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の流行にて、地域活動全体が中止となり、地域全体で自粛ムードが高まっている。外出などの施設行事に関しても、中止とし、施設内での行事のみとしている。	地区の自治会に加入し、自治会の夏祭りなどの行事に参加していたが、感染症対策で外出を制限しており、これまでのような交流ができないでいる。ボランティアの受け入れも中止している。区長さんとは、電話などで連絡や相談を積極的に行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	孤立した雰囲気にはせず、どなたであっても来所・交流できる環境にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために、運営推進会議については、資料を委員の方に郵送し、意見交換をしている。	運営推進会議は、1回は集まって開催できたが、その後は書面開催となり電話等で意見をいただいている。委員は、行政区長、民生委員、市職員で、来期からは、利用者、利用者家族の参加も考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での出席から、情報の伝達・相談できる関係にある。	運営推進会議に、市長寿社会課職員が出席し、情報をいただいたり相談したりできていたが、感染症対策で会議が書面開催となり、連絡や報告は直接窓口に出向いて行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関扉の施錠はしていない。スピーチロック等に気を付けながら、入居者様と接している。	身体拘束適正化のための指針を策定している。身体拘束適正化委員会は、職員が委員となり3か月毎に開催しており、研修は「スピーチロックについて」と「拘束しないことの基本について」をテーマに、今年は2回実施している。スピーチロックに気づいた際は、その都度改善に向けて検討し、適切なケアの提供に努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で、言葉遣いや、態度によるものも含め、職員間で話し合い、虐待防止に努めている。また、新聞記事や、ニュース、日々の業務内で起こり得る内容を意見を通し実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の入居者様該当者あり。権利擁護に関する制度の理解に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時より、重要事項説明書で説明し、ご家族等には理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活から伺える希望を取り入れ、個別に対応する体制にある。	利用者の意向は日常の会話から把握している。現在、家族の面会が制限されており、家族から直接意見を聞くことが少ないが、電話での連絡の際、「コロナで大変ですね、頑張ってください」と、逆に励まされている。毎月「グループホームあてるい通信」を家族に送付している。通信には、利用者コーナーを設け、利用者個々に担当者が状況を記述し、併せて管理者もコメントしている。面会できない分、写真で笑顔が見れて嬉しいと喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は、会議に限らず業務中でも常に出してもらおうようにし、検討するよう取り組んでいる。	職員会議は、月1、2回開催している。ミーティングや申し送りの際など、職員とは何時でも話せる機会を作っている。管理者の判断でできることは速やかに実施し、予算の伴うことは本部に上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の個性を大切にしている。また、希望休暇、年次有給休暇を取得しやすい環境作りに努めている。		

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ、それぞれの職員が研修の受講や、勉強会に参加できるように配慮している。また、資格取得の推奨も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど交流はない状態であるため、機会を設けたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には、必ず利用者様またはご家族様から意見を傾聴し、出来るだけ要望に沿ったケアプランを作成し、安心して入居して頂ける様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係を築くために、丁寧な対応、細かな情報交換を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネと連携を取りながら、その時の必要とされる支援の見極めと、今後を想定してサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし関わっていく中で学ぶことが多く、意見や意志を尊重し、その人らしく生活出来る様な関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事の際、また、電話や広報にて入居者様の様子を伝え、ご家族との絆を大切にしながら、本人を支える関係を築いている。また、日用品の補充や受診対応等でご家族にも責任をもって支援して頂いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際は、ゆっくりと過ごせるよう、雰囲気作りを心掛けている。知人の面会や外出は積極的に受け入れているが、実際に行っているのは一部の方のみである。(今年度は中止している。)	感染症対策により、家族等との面会は玄関でとしたため、利用者に寂しい思いをさせている。オンライン面会も行なったが、来訪者には馴染まないようだった。訪問美容師と馴染みになり、女性磨きの機会として来訪を楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の助け合いも生まれている。要介護度の違いから状態等の相違もあるが、協力し合う姿が見られている。また、孤立しないように職員が声掛けをし、支えあうような支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の受け入れ先が決まるまでは、ご家族等と相談・支援するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からの情報や入居者様担当職員より、情報共有を密にしている。コミュニケーションの難しい入居者様については、日々の行動、言動、表情等からくみ取り、共有・対応に努めている。	利用者のほとんどが、言葉での意思疎通ができていない。難聴の利用者とは、筆談や身振り手振りで思いや意向を把握している。得た情報については、申し送り等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴をご家族様、ケアマネから情報収集している。面会時、情報交換をし、これまでの生活歴等の把握に努めている。可能な限り、ご本人から聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌を活用しながら、変化に柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月毎に見直しを行っている。センター方式・入居者担当職員からの意見・ご家族様・主治医の意見も盛り込んでいる。カンファレンスにより、見直しがあればその都度対応し、支援に努めている。	入居時のアセスメントにより、計画作成担当者が暫定プランを作成し、その後、ミーティングや申し送りを参考に、職員会議で毎月モニタリングを重ね、原案を作成している。利用者担当職員、家族、かかりつけ医、訪問看護師の意見を反映した計画となっている。計画は、3ヵ月毎に見直しを行い、家族に説明し了承を得ている。	センター方式を活用し、アセスメントやモニタリングが確実、丁寧に行なわれている。利用者担当職員、家族、かかりつけ医、訪問看護師の意見を反映した計画となっている。サービス内容も、きめ細かく、具体的で、利用者や家族にもわかりやすく、今後も、利用者の現状に即した計画作成を続けられることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、生活の様子、食事量、水分量、排泄等を記録している。また、業務日誌、申し送りで情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医往診・車椅子電動ベットの導入・定期的な理容等、本人や家族の状況に応じてその都度話し合い、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関係機関(消防・交番)にもお願いしており、施設の認知に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医orご家族の希望による当事業所の協力医療機関での訪問診療を受け入れられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続受診している利用者は3名、他の6名は家族の希望により訪問診療を受診している。皮膚科や歯科は家族同行で通院している。家族が同行できない場合、職員が付添って受診しており、適切に医療が受けられるよう支援している。週1回、訪問看護師が来所し健康管理を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護があり、健康管理・相談を継続して行っている。また、24時間体制であり、特変や気づき等、常時報告し合い指示を受け、適切な対応を心掛けている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医師の説明を聞き家族と話し合ったり、病院での様子を定期的に見に行き、状態を把握しながら、今後についての検討を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化や終末期についての説明を行い、ご家族様には、ご理解をいただいている。又、介護度の変化に伴い、他施設への紹介や申し込みもお願いしている。	入居時に、重度化や終末期の対応について家族に説明している。重度化した場合、特別養護老人ホームや介護老人保健施設への転院を支援している。訪問看護師を講師に、終末期等の勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等は準備しているが、定期的な訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を有料老人ホームと合同で開催している。水害に関する訓練も行い周知する。	隣接する同一法人の有料老人ホームと合同で、年2回避難訓練を実施している。運営推進会議委員の区長に、見守り協力員について相談を掛けている。緊急避難時は、隣接の有料老人ホームの2階に避難することとしている。夜間想定訓練を実施しているが、実際に暗さの体験は無い。市のハザードマップでは、浸水区域には指定されていない。	管理者や夜勤者を中心に、夜間に避難経路や危険箇所などを把握し、その結果について職員会議で検討し運営推進会議に報告することで、新たな意見提言に繋がることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者個人の姿を大切にしている。その方にあった声かけや促しをし、配慮している。職員間としては、対応後にも振り返りを行ってもらい、今後に活かす工夫をしている。	利用者へは、さんづけで声掛けしている。利用者へは、一人一人の思いが違うことを念頭に、言葉遣いや口調に気をつけ、温かい声で接するようにしている。排泄介助時や入浴介助時は、特に羞恥心に配慮し同性介助に努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあてるい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定権は入居者様にあると考えられる。日常生活の関わりの中で、ちょっとした事でも本人が選択出来る働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間や就寝時間、食事など、利用者のペースを大切に、希望には出来るだけ添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り服を自分で選んでもらったり、起床時の整容、外出時など、それぞれの好みに合わせて支援。訪問理美容では本人の希望を取り入れている。行きつけの美容院・使い続けている化粧品等がある方については、継続して使用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に、入居者様の好みを取り入れ、提供に繋げている。また、行事の際など、普段と違う雰囲気や食事になるよう心掛けている。	献立は職員が交替で作成し、土曜日はカレーの日としている。利用者は、食材の皮むき、茶碗拭きなど、できることを手伝っている。職員も同じ食卓で同じ料理を食べている。食卓は、アクリル板で仕切り、感染防止に配慮している。花見には団子、おやつホットケーキ、白玉のお汁粉、焼き芋等、季節を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初めには、体重測定・日々の食事摂取量・水分摂取量にも気を配り、常時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操・毎食後、声がけ見守り、又は一部介助をし、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表のチェック、個々の排泄パターン習慣を把握し、トイレ誘導、声掛けを行っている。出来るだけトイレで排泄が出来る様支援している。	利用者個々の排泄習慣を把握し、適時声掛けし誘導している。車椅子の利用者も含め、トイレでの排泄を支援している。本人の希望で1名が夜間にポータブルを使用している。生活リハビリを取り入れ、機能維持に努めている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホームあてるい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は牛乳orヤクルト、昼食時にはヨーグルトなど、乳製品をとりいれたり、日頃からバランスの良い食事を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者には声がけをし、理解を促している。個々の希望に合わせ、臨機応変に支援・対応している。	体調により変更することもあるが、週3回午後に入浴できるよう支援している。着替えは利用者が準備し、職員は不足の部分を補っている。歌を歌ったり、職員と昔話をしたりと、利用者の寛ぎの時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態や習慣に合わせて、それぞれの部屋、ホールの過ごしやすい場所で休息をとっていただき、落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬局からの説明により、服薬時の注意点等を必ず確認するようにしている。服薬は複数の職員で確認をし、服薬後の様子観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせてお手伝いをして頂いたり、散歩、レクリエーションなど、メリハリのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の意向・ご家族様の了承を得ながら支援に努めている。	感染症対策で、散歩や買い物などの外出が制限され、ストレスが大きいことから、外気浴を兼ねて中庭で焼き芋パーティーをしたり、敬老会(家族は参加せず)では、豪華景品やご馳走を奮発したり、気分転換を図れるよう工夫を凝らしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、お小遣いを預かっている方もいる。必要な物がある場合は、職員が代行している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホームあてるい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族の了解のもと、読み上げすることもある。電話については、自らかける事はほとんどないが、希望があれば支援。取り次いだり、口頭や文章で御伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持や空調などに気を付けている。季節を感じる飾りつけや、お花、入居者様の作品を飾っている。また、日常生活の掲示することで、入居者様、ご家族様・面会者様にもご覧になり、雰囲気づくりに繋げている。	居間兼食堂は、窓から入る日差しで明るく、空調などで適切な室温が保たれている。壁には大きな貼り絵のカレンダーを掲示している。外出制限で、事業所内で過ごす時間が多くなり、敬老会は利用者と職員で行い、炭坑節を全員で踊り会を盛り上げた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では、食事席のほかに、テレビやソファ、小上がり(畳椅子)があり、寛げる場所となっている。座席は一方的に決めず、状況に応じ対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのあるものをご持参いただいている。安心して過ごせるように、本人様の意思に添い、配置や整理を行っている。	居室は、収納庫、ベッド、洗面台が備え付けられている。自宅から、テレビ、ラジオ、時計等が持ち込まれ、カレンダー、家族写真を飾り、文字通り自分の部屋になっている。掃除は、毎日職員と一緒に、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりに合わせて安全で安心できる環境を作り、自立した生活が遅れる様支援している。		